

第12回メソ気象研究会開催のお知らせ

第12回メソ気象研究会を、1998年日本気象学会春季大会（東京）の前日に開催いたします。今回は「梅雨に伴う西日本の豪雨—1996年南九州特別観測を中心として」と題して行う予定です。1996年の梅雨期には九州南部を中心として大学や国立の研究機関が参加し緩やかな協力体制で共同観測が行われました。それ以来ほぼ2年が経過して、多くの興味深い結果が気象学会でも報告されつつあります。今回のメソ気象研究会ではこの特別観測の1つのまとめとして、その結果を中心とした梅雨に伴う西日本の豪雨についての研究の講演と意見交換を行いたいと思います。特別観測を中心としますが、それに参加した機関だけの研究会ということではなく、主催者としては広く一般に豪雨の研究に関心のある方に御参加いただいで意見交換や討論をしていただきたいと考えています。奮ってご参加下さい。

プログラム

日時：1998年5月26日（火）14：00～18：00

場所：気象庁8階の東京管区気象台会議室

テーマ：「梅雨に伴う西日本の豪雨—1996年南九州特別観測を中心として」

コンピーナー：坪木和久（名古屋大学大気水圏科学研究所）

一座長：坪木和久（名古屋大学大気水圏科学研究所）—

1. 岩崎俊樹（気象庁） 14：00～14：20
関東地域メソ解析プロジェクト
2. 二宮洸三（東京大学気候システム研究センター）
14：20～14：40

梅雨前線に及ぼす中緯度擾乱の影響

3. 吉崎正憲（気象研究所） 14：40～15：00
TREX のレビューと1998年九州特別観測
4. 別所康太郎（気象研究所） 15：00～15：20
TREX 期間中における梅雨前線の活動
5. 中田 隆（東京大学海洋研究所） 15：20～15：40
対流圏の鉛直微細構造
6. 若月泰孝（名古屋大学大気水圏科学研究所）
15：40～16：00
梅雨前線体の長寿命の停滞したクラウドクラスターの発達・維持の特徴—1996年7月5日～7日—
—coffee break— 16：00～16：20
7. 加藤輝之（気象研究所） 16：20～16：40
1996年梅雨期における降雨の日変化の特徴と気象研究所非静力学モデルの予想降雨精度検証
8. 耿 驍（名古屋大学大気水圏科学研究所）
16：40～17：00
大気環境場の変化とメソ β スケール積乱雲群の発達
9. 瀬古 弘（気象研究所） 17：00～17：20
1996年7月7日に南九州で観測された梅雨前線内の降水システム
10. 高橋 劭（桜美林大学） 17：20～17：40
南九州豪雨機構の雲物理学的研究
11. 総合討論 17：40～18：00
代表世話人 小倉義光（日本気象協会）
事務局 吉崎正憲（気象研究所）
坪木和久（名古屋大学大気水圏科学研究所）